



カオスにして相潰し傷付けるにはあらず。
世が調和しつつ乱雑たるがごとし
千差のうちに秩序ありて

万物なるも凡て符号せり。

Es seiend, mache ich es ohne dort zu Chaos
und verliere einen Aspekt,
und fähig zu sein, weh getan zu werden.
Während die Welt harmonisiert,
bin ich unordentlich.
Es gibt Reihenfolge auf unendlicher Vielfalt
und Alle Sachen alle sind aber Flecke,
die sie werden.

—Alexander Pope—

.

流れる雲のvectorを垂直に割り込み、
地平線の端末をひとすじに差し込む白い太陽光。

おそらく僕らはあの空の穴から
落ちて来たのかもしれない。

幻想か現かの臨界も認識しないまま
気が付けばここに立たされていた。

有限と無限のintervalで
符号のprismが交信する中、

失われる環。
バラついたinformation。
演じるウソで歪む感情線。
色付く季節の中で
簿弱してゆくgrunge-city。

僕らはバグ・システム内をstrokeし、
誤作動のconfusionを反復しているだけ・・・

それでも僕らは錯綜な消失点の先を図りながら
僅かなcoincidenceに期待する。

輻輳の共有思考は、

虚構のまどろみに翻弄され、
真空は漆黒の闇に閉ざし、

退屈をくだらない理屈で日々埋め尽くす。

僕らはこの実体のないparallel worldで、

対象を洞察し、
中庸を装い、

自分を知り妥協へ帰納しては
細胞の変換を幕等し、

ひたすら不動点に沿ってゆく。

ただpanopticonの
ジオラマに詰め込まれた、

統計を創るだけのくだらない産業者。

そんな座標行程さえ
僕らはまだ解らずにいた . . .